

## 夢はキャプテン

小樽協会病院産婦人科 黒田 敬史

幼い頃に描いた将来の夢を覚えているだろうか。幼稚園の頃の私は「サッカーのキャプテン」と書いた。当時からどこか1本過不足があったことがわかる。時は令和、幼稚園児の夢に「産婦人科医」と科まで指定してくれる子がいるらしい。さらにおままごとに代わり「帝王切開ごっこ」までする熱心ぶりだ。コウノドリよろしく「赤ちゃん1分でおしましゅ！」という具合だろうか。

幼稚園児の想像力には敵わないが大人も負けていられない。シミュレーション教育は座学と臨床の間をつなぐ架け橋となり、患者に迷惑をかけず何度も失敗しながら学べるツールとして今や医学教育の中に広く普及している。学生好きが高じて勧誘目的に始めた周産期救急シミュは私にとってライフワークとなり、小樽協会病院の分娩再開業務では職員教育や医療安全へ広く活用した。道内への普及や定期開催を考える上で心強いのは、医学系3大学が同じ熱量で同じ方向を向いていることだ。産科医と全身管理医が協働するJ-CIMELSコースは札幌、函館にとどまらず室蘭、帯広でも開催予定だ。またAdvanced



Life Support in Obstetrics (ALSO)と救急隊員を主対象とする病院前周産期救急Basic Life Support in Obstetrics (BLSO)の普及を共に推進することで、病院救急間の連携強化が周産期医療水準向上に資すると信じ、コースが行政施策に組み込まれるよう大学の垣根を超えて働きかけている。夏には小樽協会病院でALSOコース開催も実現した。

自身の過不足を自覚し、シミュで培った相互支援関係を信頼しながら、医師というキャプテン業務に精を出す。

次号は、バトンを渡すことをお願いしたところ、まもなく「大好物です！」とご快諾をくださいました、4年前ともに忘年会再会に懸けたハートフルな内科医・福島新先生にバトンを渡します。お楽しみに！



2019年8月、分娩を再開した小樽協会病院でALSOプロバイダーコースを開催。40名が受講した。